

令和元年度 第4回大会・研修委員会 会議録（概要）

日時：令和2年2月7日(金)14時～17時15分

会場：秋田県東京事務所会議室

出席者：長谷川副委員長・青木委員・新井委員・豊見山委員・蓮沼委員・松岡委員

オブザーバー：佐藤大介氏（東北大学災害科学国際研究所）

加藤諭氏（東北大学史料館）

事務局（桜庭・煙山）

協議事項

(1)・(2)令和元年度事業報告・決算見込、令和2年度事業計画・予算案について

それぞれ事務局より説明した。

- ・令和2年度予算案を3,866千円とすることとした。
- ・大会が当初の予定より2週間早まったため、令和2年度第1回委員会で大会テーマや報告者・担当割り当てなどの骨子を固めてしまい、報告者候補への報告・原稿依頼などを早めに行う。

(3)第45回全国（安曇野）大会について

大会当日に回収したアンケートの結果について、事務局から報告し、意見交換を行った。

- ・大会テーマについては適当であったとの意見が多く、不適當であるという回答はアンケートを見る限りは無かった。
- ・視察については、各施設についてももう少しゆっくり見たかった、視察が定員に達してしまい参加できなかった、という意見もあったが、視察内容自体については好評であった。
- ・公開講演会については、加藤館長の熱意を感じたとの意見が多かった。
- ・研修Bについては、長い経験に基づく話に説得力を感じた意見があった。学校資料への取り組みについて関心を持たれた方が多かった。
- ・研修Cについては、公文書に残らない社会問題に関する資料について、ドキュメンテーション戦略の考え方に興味を持った方が多かった。
- ・研修Dについては、アーキビストの前方展開についての努力を評価する一方で、個々の現状について歯がゆい思いを持っている意見もあった。
- ・研修Eについては、地域資料の現状について、参加者が危機感を共有していることがよく分かる意見が多かった
- ・調査・研究委員会報告については、研究テーマの初年度ということで調査の進展について期待するという意見や、これまでの調査との関係性についてもう少し説明して欲しい、などの意見があった。
- ・大会テーマ研究会についても好意的な意見が多かった。中でも「長野県において、全国に

先がけて公文書館が多数建設されている背景について、3つの視点（3つの報告）からわかりやすく解説していただけたと感じました。歴史的な要因や県民の皆様の熱意など、様々な要因が複雑に絡み合っていることだと理解しましたが、少しでも自県に持ち帰り、自県の現状改善に役立てられたらと思いました。」というコメントがあり、テーマ設定の意図は伝わったと感じた。

- ・ポスターセッションと企業展示については、場所が狭かったという意見があった。特にポスターセッションは盛況だったため混雑した。内容については概ね好評であった。
- ・運営全般については、開会行事が大会初日の冒頭（研修会A（視察）の後）になってすっきりした、との意見があった。
- ・安曇野市の方々に、細部にわたって非常に積極的にご協力をいただいた。
- ・今後の大会テーマについては、電子文書・デジタル化などについての分野に期待する意見が多かった。今大会は市町村の文書館をテーマに開催したが、各自治体の文書管理担当者が直面している問題と思われる。その他、人材に関するもの、公文書管理法令(条例など)、震災・災害対応などに関する分野に関心が高かった。
- ・大会にのぞむことについては、研修・報告を充実して欲しいという要望と、文書館施設の連絡協議会として情報交換の機会であることを大切にしたいという意見があった。
- ・大会後の土曜日には、安曇野市内の博物館・美術館に大会に参加した方の来館があった。
- ・公開講演会を設けたことで、市民の参加者があった。講演を聞いた市民からは古文書解読に関する後継者育成について積極的な意見が寄せられている。
- ・長野県内自治体にも良い影響があると思う。特に条例の整備や公文書の整理について、前向きに検討する自治体が多くなった印象がある。
- ・安曇野市としては開催した成果はあったと考えている。昼食の弁当や、交流会、土産品の販売などで全国に安曇野市をPRできたことは大変有り難かった。

#### (4)第46回全国（仙台）大会について

- ・長谷川副委員長より資料に基づき大会テーマの方向性について説明があった。

東北地方では仙台市・横手市で公文書館が来年度に開館する予定であるなど、各地で公文書館設置に向けた動きがある。また阪神・淡路大震災以降、各地の公文書館施設や資料ネットなどによる資料保全活動が経験・実績を積み重ねている。東日本大震災後の資料保全活動の新段階を見据えた大会にしたい。また全史料協と史料ネットとの連携のあり方を模索したい。

- ・構成についてはアーカイブズ入門と応用編的な研修B・Cは残し、災害対応と災害復興という大会テーマのもとに大会テーマ研究会を公文書中心、民間・地域資料中心に論議する時間を大会初日・2日目に分けて全体で討論し、最後にパネルディスカッションなどの総合的な討論の時間を設ける形にする。
- ・2日目の大会テーマ研究会の前に基調講演をお願いする。

- ・宮城県域を中心とした東北地域の大学や市町村から様々な話をしていただき、今後の連携につなげたい。

- ・東北大学災害科学国際研究所・東北大学史料館の視察については定員を設定して班で区切り、それぞれ見学していただく。個々の視察箇所の形式・場所については検討する。

- ・宮城県公文書館への視察はバス 1 台でうかがう予定だが、受け入れ可能人数については先方と再度確認する。

#### (5)令和 2 年度委員体制について

- ・令和元年度をもって、現委員のうち、工藤委員長・豊見山委員・松岡委員が退任する。また第 47 回大会予定地である高知県と、次期大会・研修委員会事務局を予定している山口県文書館からの就任予定者は今後連絡・調整することとした。長谷川副委員長・青木委員・新井委員・蓮沼委員は留任する。

(6)令和 2 年度第 1 回委員会は、4 月 28 日(火)を予定として調整する。